

## 昭和三陸地震津波(1933)被災地の 空中写真の発見

° 稲崎富士(建設省土木研究所)・海野芳聖(国土地理院)

### Discovery of airphotographs picturing stricken areas by the Syowa Sanriku Tsunami in 1933

° INAZAKI Tomio (Public Works Research Institute) and  
UMINO Yoshikiyo (Geographical Survey Institute)

昭和三陸地震津波(1933)の被災地を撮影した空中写真が土木研究所に残されていた。撮影地域は岩手縣九戸郡種市村八木から宮城縣亘理郡坂元村磯(旧地名)にかけての52地域である。撮影時期は同年6月より7月にかけてであり、被災時より3~4ヶ月を経過してはいるが写真からは津波による被災状況を総観することができる。

戦前に撮影された大縮尺の空中写真はほとんど残されておらず、また1933年当時は空中写真測量の導入期にあたることから、本写真は測量史的にも貴重なものであるといえる。加えて近現代の地震津波に対して、従来の地上写真では把握が困難であった被災地の全体像を確認できる新たな写真資料の発掘という点でも意義があると思われるのでここに報告する。

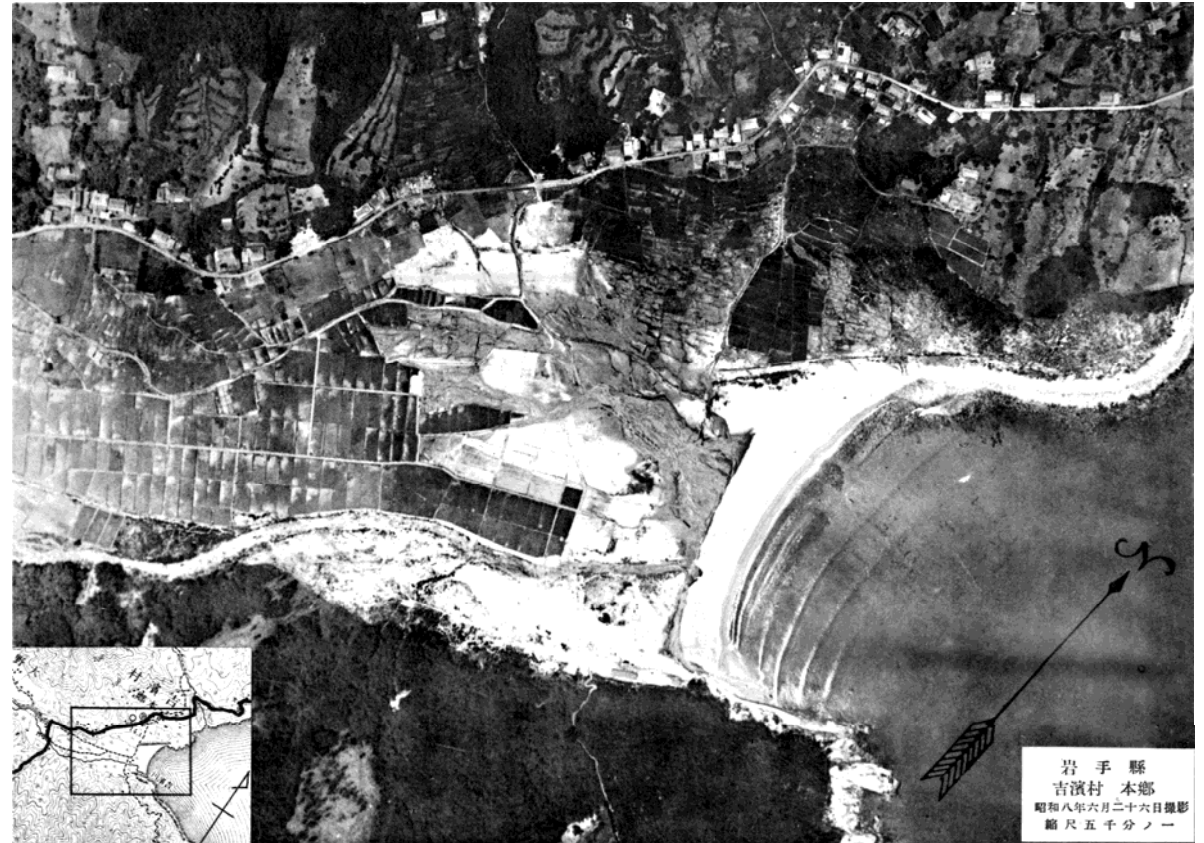
空中写真は、光沢薄手の印画紙に焼き付けられている。1~7葉の写真をモザイク状に貼り合わせ、参照地形図・撮影地域名等を写し込んだ再編集写真である。縮尺は約1/5000で、撮影範囲が地域毎に異なるため印画紙のサイズも25×17cm~42×57cmと不揃いとなっている。

岩手縣氣仙郡吉濱村本郷地区の空中写真を右に示す。当該地区は、明治三陸津波以降高台に集落を移転していたことから、人的被害・家屋被害とも侵襲津波高さが約

16mに達した割には軽微であった。道路(ほぼ津波浸水線に一致)沿いの家屋には損壊・改修の形跡はほとんど認められない。

一方吉濱川に沿った低地部では、区画整理された耕地部で特徴的に確認できるように、津波で運ばれた海浜砂礫が地形的障害の前面(海側)に堆積していることが明瞭に読みとれる。このことは、砂礫が引き波時に堆積したことを示しており、津波堆積物の分布を示標に、当該地区での津波の流下経路を推定することができる。

なお津波浸水域をこの空中写真のみから判読することは、撮影時期が遅いこともありかなり困難であるが、津波堆積物等の分布から浸水域に関する既往の資料を裏付けることは可能であろう。



吉濱村本郷地区の空中写真(左右約1.2×天地約0.8km)